

鐘紡資料叢書 株主総会編<第2巻概要>

本書では、津田信吾の社長時代の「議事速記録」と「演説速記録」を取り上げている。津田信吾は、昭和5年（1930年）6月に鐘淵紡績の社長に就任した。1930年といえば、史上最大規模の大恐慌の真っ只中であった。昭和4年（1929年）10月29日の株価大暴落に端を発し、米国の株価は8割以上、暴落し、失業者数は1200万人（失業率25%にあたる）を超えた。1929～1932年の間に世界の貿易額は7割以上、減少し、失業者は5000万人に達したとされる。世界各国は封鎖的な経済圏を形成し、世界経済はブロック化へと向かっていった。津田信吾は、このような激動の時代に関与した社長となったのである。

本書は、昭和5年（1930年）の株主総会から始まっているが、実は、この年、鐘淵紡績株式会社では、大変な事件が起こっていた。これは、昭和における代表的な労働争議であり、後に鐘紡争議と呼ばれた。当時の鐘淵紡績株式会社は、36工場、約3万7000人の従業員を擁する大企業であったが、大家族主義と呼ばれるように、安定した労使関係が築かれ、労働運動の兆しはなかった。しかし、昭和5年（1930年）4月、会社側からの賃下げ通知により、隅田、京都、兵庫、淀川の各工場において大規模な争議が勃発した。結局、2ヶ月に及ぶ争議の後、全ての工場において労働者側の敗北に終わった。本書は、その労働争議が終わった直後の昭和5年（1930年）7月から始まる。当然のことながら株主総会では、労働争議について、株主に対し、いきさつ、経緯、結果など、報告がなされている。労働争議について、当事者である津田信吾、自らの言葉が聞ける貴重な資料となっている。

ISSN 1345-8620
ISSN 2185-503X



Research Institute for
Economics and Business Administration
Kobe University

研究叢書 79
鐘紡資料叢書
株主總會編
第 2 卷

神戸大学経済経営研究所

伊藤 宗彦 編

第2卷 目次

鐘淵紡績株式会社第八十七回定時株主総会議事速記録	⋮	1
鐘淵紡績株式会社第八十八回定時株主総会に於ける津田社長演説速記録	⋮	31
鐘淵紡績株式会社第八十九回定時株主総会に於ける津田社長演説速記録	⋮	51
鐘淵紡績株式会社第九十回定時株主総会に於ける津田社長演説速記録	⋮	67
鐘淵紡績株式会社第九十一回定時株主総会に於ける津田社長演説速記録	⋮	81
鐘淵紡績株式会社第九十二回定時株主総会に於ける津田社長演説速記録	⋮	93
昭和八年七月二十二日 鐘淵紡績株式会社第九十三回定時株主総会に於ける津田社長演説速記録		

附、日英綿業戦

…
113

昭和九年一月二十三日 第九十四回定時株主總會津田社長演説速記録

附 日印会商問題参考資料 乾繭管理に関する私案

…
143

昭和九年七月二十三日

第九十五回定時株主總會津田社長演説速記録

…
195

昭和十年一月二十四日

第九十六回定時株主總會津田社長演説速記録

…
207

昭和十年七月二十三日

第九十七回定時株主總會津田社長演説速記録

…
225

昭和十一年一月二十三日

第九十八回定時株主總會津田社長演説速記録

…
231

昭和十一年七月二十三日

第九十九回定時株主總會津田社長演說速記録

昭和十二年一月二十三日

第一百回定時株主總會津田社長演說速記録

∴
257

∴
241